

日本およびドイツにおけるサッカー指導指針の比較

永阪 浩之 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 山田 庸

キーワード：相違点，技術，戦術，育成年代

1. 緒言

近年，日本人サッカープレイヤーが海外クラブチームに移籍し活躍する機会がふえているしかし，まだまだ海外で活躍できる選手の数は少なく，海外クラブに移籍しても活躍できずに日本のクラブに帰ってくる選手も少なくない．世界基準で見ると日本のサッカーのレベルは着実に成長しているもの，強豪国との差は依然として縮まっていない．

しかし，設備が充実している日本で世界で通用する選手がさほど育成されていないのか．これには日本特有の指導指針，指導環境，性格が関係していると思われる．日本サッカー協会技術委員長の原博実氏は，日本人には個人の主張が足りないことを示唆している．(池田 2009)日本のサッカー事情に詳しいドイツサッカー連盟コーチライセンス研修責任者であるベルント・シュテーバー氏が来日した際のインタビューで「日本人は高い技術があるが，実戦で使えるものではない．実戦で使えるトレーニングが必要」だと述べている．(池田 2009)

このような日本とヨーロッパの選手の違いはどこから生まれたのだろうか．その要因の一つとして，指導指針や指導環境の違いが考えられる．日本はJリーグ，またコーチングライセンスシステムにおいてドイツをモデルにしてきた経緯がある．しかしながら，未だドイツのようなサッカーでの輝かしい成績を収めることが出来ていない．

そこで本研究では，2014年ワールドカップで優勝したドイツと日本では指導指針にどのような違いがあるのかを明らかにすることを目的とした．

2. 調査方法

対象：日本およびドイツの各年代カテゴリー別の選手育成方針

方法：各国の文献，資料を収集，整理し，項目ごとに情報を集約，比較を行う．

3. 結果

精神面，身体発達面で両国に差は無い．しかし，相違点としてサッカーの技術の習得，各年代で指導者が選手に求める観点で違いがある(表1)．

4. 結論

- 1.日本とドイツの指導指針は異なる．
- 2.身体発達面や精神面では多くが共通する．
- 3.技術/戦術における各年代カテゴリー別の選手育成方法には違いがある．

引用・参考文献

池田哲雄(2009)日本式育成論，サッカークリニック，16(9)：4-5．

池田哲雄(2009)日本の長所と短所を知る．サッカークリニック，16(11)：26-31．

表1 指導指針の共通点と相違点

年代	共通点		相違点	
	ドイツ	日本	ドイツ	日本
5~10歳	・遊びの中でボールに触れる	・ボールに触れることの楽しさ	・個人戦術 ・グループ戦術	・サッカーの基本技術
10~15歳	・育成面でも非常に難しい年代	・指導においてとくに難しい時期	・テクニクでは大人と同じレベルを求める	・それぞれの子どもにあった指導
15~18歳	・大人のサッカーの準備段階	・自立のための準備期	・『試合に勝つ』ためのトレーニング	・自らの個性を発揮